

地誌 第41回「日本地誌(3) 日本の農林水産業」

○今回のポイント

日本はかつて農業国であったが現在は就業人口が5%未満。
安い外国産の輸入産物で賄われている。

日本の農業の特徴と問題点

(1)特徴

- ・家族経営の個人農家が多く、北海道を除くと一人あたり農地面積が非常に小さい零細経営が中心。
- ・【① 土地生産性】が高い ⇒ 小型農業機械、農薬、化学肥料が普及し、資本集約度が高いため。
※狭い土地に大量にカネが投入されるので、単位面積あたりの収穫量が大きくなる。
- ・【② 労働生産性】は高くない ⇒ 一人当たりの農地面積が小さいため。
※農地面積が狭いので農民一人当たりの収穫量は大きくなる。

(2)問題点

- ・農業就業人口の割合は【③ 5%】未満。
- ・農業労働者の高齢化、後継者不足、耕作放棄地の増加。

日本の農業の変化

(1)1942～：【④ 食糧管理制度】

- ・戦時中から続く「米などの食料を政府が直接買い入れて販売を管理する制度」。
- ・政府が生産者米価を定めて農家からコメを買い上げ、消費者の家計を圧迫しない程度に消費者米価を定めて米を消費者に販売する。これによりコメの価格が保証され、稲作では安定した農業経営が可能になる。

(2)1970～：【⑤ 減反政策】

- ・高度経済成長による食生活の変化…コメを食べず、小麦・肉・乳製品などの消費量が増加
⇒コメの生産過剰、剰余米の増大が深刻な問題になり、1970年からコメの作付面積を制限し、生産調整を実施。

(3)1995～：【⑥ 新食糧法】

- ・食糧管理制度を廃止。市場原理に基づくコメ流通の一層の自由化が図られる。
- ・輸入制限が続いていたコメは95年に部分開放が実施、99年から関税化によるコメ輸入が行われている。

日本の農業地域

(1)水田率や農業産出額に占めるコメの割合が高い地域

- ・山陰、北陸、東北地方の【⑦ 日本海側】…冬の積雪で農業困難⇒雪解け水で灌漑し、水田単作地域

(2)水田率や農業生産額に占めるコメの割合が低い地域

- a. 神奈川、千葉など大都市圏に位置する都府県 ⇒ 野菜を集約的に栽培する【⑧ 園芸農業】
- b. 夏も冷涼な北海道 ⇒ 【⑨ 畜産】、畑作(ジャガイモ、玉ねぎ、大豆など)
- c. 火山灰性土壌が広く堆積している鹿児島、宮崎 ⇒ 【⑩ 豚】(鹿児島)、【⑪ ニワトリ】(宮崎)。
- d. 石灰岩質の土壌が分布する【⑫ 沖縄県】 ⇒ サトウキビなど

日本の食料自給率

○1960年 自給率約[⑬ 80%] ⇒ 2010年 自給率約[⑭ 39%]

○食料自給率が比較的高いもの

- ・米…主食なので高い。しかし95年から外国産米が輸入されるようになる。
- ・野菜、[⑮ 鶏卵]…鮮度が求められ冷凍保存が難しいので自給率が高い。

○食料自給率が低いもの

- ・[⑯ 果実]と肉類…1980年代まで80%以上であったが、90年代に自由化が始まったので大幅に減少。
- ⇒このことから TPP で経済自由化が起これば食料自給率が下がることが予想される。

●日本の食料自給率の推移 (国内総供給量に対する国産供給量の割合)(%)

	1960	1970	1980	1990	2000	2009	2010 (概算)
穀物 (食用+飼料用)	82	46	33	30	28	26	27
米	102	106	100	100	95	95	97
小麦	39	9	10	15	11	11	9
大豆	28	4	4	5	5	6	6
野菜	100	99	97	91	81	83	81
果実	100	84	81	63	44	42	38
肉類 (鯨肉を除く)	91	89	81	70	52	57	56
鶏卵	101	97	98	98	95	96	96
牛乳・乳製品	89	89	82	78	68	71	67
供給熱量自給率	79	60	53	48	40	40	39

会計年度。1980年度以降は沖縄県を含む。各品目の自給率は重量ベース。

【日本国勢図会 2012/13】による

日本の林業

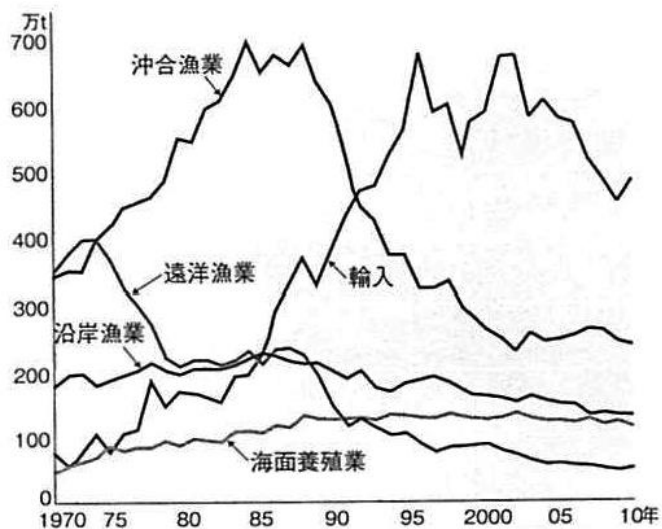
○1955年 自給率約94.5% ⇒ 2002年 自給率約[⑰ 18.8]%

☆自給率低下の要因

- ①日本の林業が[⑱ 零細経営]で生産性が低く安価な外国産の木材輸入に対抗できなかった。
- ②林業事業者の高齢化や後継者不足により林業そのものが衰退していった。

○日本は森林資源に恵まれる国でありながら、中国やアメリカ合衆国などと共に世界有数の木材輸入国。

日本の水産業



(1)高度経済成長期～1973年[⑲ 遠洋漁業]

- ・2度の石油危機による燃料費の高騰、200海里経済水域の設定により減少

(2)1973年～1980年代後半[⑳ 沖合漁業]

- ・乱獲による日本近海の水産資源の減少

(3)1980年代後半～ [㉑ 輸入量]の増加

- ・日本は世界有数の水産物の輸入国
⇒エビ、マグロ、サケ、マスなど

Cf.養殖漁業と栽培漁業

- ・[㉒ 養殖]は水産物を人工的に管理、育成。
- [㉓ 栽培漁業]は知行を放流して、成長したら捕獲。